

福 祉

1 教育課程の編成

(1) 教科の目標を達成するための教育課程編成上の留意事項

福祉科の目標及び育成を目指す資質・能力は、次のとおりである。

- ア 福祉の各分野について体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けるようにする。
- イ 福祉に関する課題を発見し、職業人に求められる倫理観を踏まえ合理的かつ創造的に解決する力を養う。
- ウ 職業人として必要な豊かな人間性を育み、よりよい社会の構築を目指して自ら学び、福祉社会の創造と発展に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。

福祉科においては、これまでも関連する職業に従事する上で必要な資質・能力を育み、福祉や地域を支える人材を育成してきた。こうしたことを踏まえ、実践的・体験的な活動を行うことなどを通して、福祉を通じ、人間の尊厳に基づく地域福祉の推進と持続可能な福祉社会の発展を担う職業人の育成を目指すことを教科の目標に示している。

(2) 各教科・科目における履修の順序性等について

福祉に関する各学科における原則履修科目は、従前と同様、福祉に関する学習の基礎的科目である「社会福祉基礎」と福祉に関する各科目で習得した知識と技術の深化・統合化をねらいとする科目である「介護総合演習」の2科目としている。

なお、科目の性格やねらいなどからみて、「社会福祉基礎」は低学年で、「介護総合演習」は「介護実習」の指導と併せて履修させることが望ましい。

(3) 特色ある教育課程の編成

ア 学校設定科目

各学校においては、標準単位数を踏まえ、学科の特色や生徒の実態に応じて、適切に科目を選定し、履修単位数を定めるとともに、特色ある教育課程の編成に資するよう、社会福祉の発展や地域福祉の進展、地域の実態等に対応し、新しい分野の教育を積極的に展開する必要がある場合には、学校設定科目を設けるなどして、特色ある教育課程を編成することが大切である。

イ 専門教科・科目による必履修教科・科目の代替

専門教科・科目を履修することによって、必履修教科・科目の履修と同様の成果が期待できる場合は、その専門教科・科目の履修をもって必履修教科・科目の履修の一部又は全部に替えることができる。

福祉に関する学科においては、「福祉情報」の履修により「情報Ⅰ」の履修に代替することなどが考えられるが、全部代替する場合、「福祉情報」の履修単位数は2単位以上が必要である。

なお、機械的に代替が認められるものではなく、代替する場合は、各学校に説明責任が求められる。

2 指導計画の作成と内容の取扱い

(1) 指導計画の作成に当たっての配慮事項

各学校において、具体的な指導目標、指導内容及び指導方法などを定めた指導計画を作成する際には、次の事項に十分配慮すること。

ア 単元など内容や時間のまとまりを見通して、その中で育む資質・能力の育成に向けて、生徒の主体的・対話的で深い学びの実現を図るようにすること。その際、福祉の見方・考え方を働かせ、生活に関する事象を捉え、専門的な知識や技術などを基に実際の福祉に対する理解を深めるとともに、新たな社会福祉の創造や発展に向けて実践的・体験的な学習活動の充実を図ること。

イ 地域や福祉施設、産業界等との連携・交流を通じた実践的な学習活動や就業体験活動を積極的に取り入れるとともに、社会人講師を積極的に活用するなどの工夫に努めること。

ウ 障がいのある生徒などについては、学習活動を行う場合に生じる困難さに応じた指導内容や指導方法の工夫を計画的、組織的に行うこと。

(2) 単元の指導計画作成上の留意点

各科目において、単元の指導計画を作成する際には、2(1)について配慮するとともに、次の点に十分留意すること。

ア 言語活動の充実

福祉科で言語活動の充実を図るため、「介護総合演習」をはじめ福祉に関する各科目において、福祉に関する課題を設定し、協働して分析、考察、討論を行うことにより生徒の主体的・対話的で深い学びの実現を目指すことが可能となる。

特に、介護実習後の実習報告会、あるいは生徒の状態に応じ、個人またはグループで課題を設定して実施する調査、研究、実験等のレポート作成、成果発表会などを行うなどして、言語活動の充実を一層重視する必要がある。

イ コンピュータや情報通信ネットワークなどの活用

福祉に関する各科目においては、福祉・介護の情報化の進展に対応し、記録や介護計画の作成、福祉情報の収集などにおいて、コンピューターや情報通信ネットワークなどを活用するとともに、障がい者や高齢者の自立支援にも大きな役割を果たしていることなどについて配慮することが必要である。

学校における各科目の指導に当たっては、生徒の情報能力の育成に努めるとともに、指導の工夫を図り、学習の効果を高めるよう配慮することが必要である。

ウ 実験・実習の実施

福祉に関する各学科においては、介護実習施設における実習や福祉機器を活用した実験・実習が行われることから、関連する法規等に基づき、施設・設備や薬品等の安全管理と学習環境の整備に十分留意することが必要である。

特に、入浴機器や移動用リフトなどの福祉機器の操作、体位変換や移乗・移動・食事などの学習時における生徒の安全と衛生について、十分配慮することが必要である。

エ 単元の指導計画（例）

ここでは、原則履修科目である「社会福祉基礎」における単元「社会福祉の理念と意義
ア 生活と福祉」の指導計画を次に示す。

単元名	(1) 社会福祉の理念と意義 ア 生活と福祉 (全8時間)				
単元の目標	生活や自立の概念、日常生活と福祉の関わり、社会福祉理念の変遷など社会福祉に関する基礎的な学習を通して、社会福祉の理念や意義、尊厳の保持や自立支援などを理解できるようにするとともに、働くことの意義や役割、職業人に求められる倫理観を身に付ける。				
評価の観点	知識・技術	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度		
評価規準	生活や自立の概念、日常生活と福祉、社会福祉理念の変遷などについて理解するとともに、関連する技術を身に付ける。	社会福祉の理念や意義、尊厳の保持や自立支援などに関する課題を発見し、職業人に求められる倫理観を踏まえ、科学的な根拠に基づいて創造的に解決する。	社会福祉の理念や意義、尊厳の保持や自立支援などについて自ら学び、主体的かつ協働的に取り組む。		
次程	学習内容とねらい	評価の観点			評価方法
		知	思	態	
第1次 (1時間)	少子高齢化と人口減少社会について 【ねらい】 進行する少子高齢化と人口減少の状況における社会福祉が担う役割を考察する。	<input type="checkbox"/> 高齢者施設への見学と自宅介護経験者へのインタビューから社会福祉の役割についてレポートにまとめる。	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	・レポート 地域や福祉施設との連携による実践的な学習
第2次 (1時間)	地域社会の変化について 【ねらい】 大都市への人口移動に伴う都市と地方の格差、地域社会の変化について理解し、今後の地域社会の在り方を考察する。	<input type="checkbox"/> 地域住民同士のつながりを高めるための共助の方法についてグループで考え、発表する。	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	・発表内容 協働的な学びによる言語活動の充実
第3次 (1時間)	生活の変化について 【ねらい】 家族形態の多様化や女性の職場進出の結果生じた育児、介護に対する我が国の社会的支援の在り方を考察する。	<input type="checkbox"/> 事例に対する社会的支援の在り方について、育児介護休業法に基づきながらグループで考え、発表する。	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	・発表内容 協働的な学びによる言語活動の充実
第4次 (1時間)	疾病構造の変化と国民の健康づくりについて 【ねらい】 国民の疾病構造の変化やこれまで我が国が担ってきた保健医療施策について理解し、今後の国民の健康づくりの在り方、社会福祉サービス施策との関わりを考察する。	<input type="checkbox"/> 保護者に対する健康づくりの提案をするための資料を作成し、保護者に対してプレゼンテーションを行う。	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	・提出資料 ・自己・保護者からの評価 言語活動の充実
第5次 (2時間)	人の一生と社会福祉について 【ねらい】 時代の変化に伴うライフサイクルの変化、多様化について理解し、ライフステージにおける社会福祉施策との関わりを考察する。	<input type="checkbox"/> ライフステージごとの人生のリスクとそれに対する社会福祉施策との関わりを踏まえたライフスタイルの予想図を作成する。	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	・ライフスタイルの予想図 学習内容を人生と結び付ける
第6次 (2時間)	単元のまとめ 【ねらい】 日常生活と単元の学びの結び付きを発見する。	<input type="checkbox"/> 単元と関わりのある新聞記事を選び、グループごとに模造紙にまとめ、発表する。	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	・発表内容

3 主体的・対話的で深い学びの実践例

ここでは、学習活動の重点化を図ることで生徒が主体的に学ぶ場面を設定した科目「社会福祉基礎」の実践例を次に示す。

◆科目「社会福祉基礎」における1単位時間（第6次）の指導と評価の計画

1 本時の目標

- (1) 単元に関連する新聞記事をまとめ、福祉の学びが社会どのようにつながるのか考察する。
- (2) 社会の課題及びその解決のために福祉が果たしている役割や、福祉に携わる職業人に求められる資質や能力について考察する。

2 本時の展開（全8時間予定の7、8時間目）

社会における福祉の果たす役割などの考察に重点を置くため、家庭学習を活用して単元の学びを振り返る。

【家庭における学習活動（事前）】




前時に以下を指示する。

- ①配信されたSDGsと日本の社会課題に関する説明動画を見ること。
- ②ワークシートを見ながら今までの単元での学びを振り返ること。

主体的な学び

習得

【授業展開】

過程	学習内容	生徒の学習活動	指導上の留意点
導入 20分	・SDGsや日本の社会課題と単元の学びの関連	・グループに分かれ、各自の家庭学習の内容について共有を図り、グループ内で目標や課題を整理し、発表する。	・単元との関連について、選んだ理由を説明する。
展開 50分	①新聞記事を探し、発表準備    ②選んだ新聞記事の発表 ③単元のまとめを作成	・共有した各目標や課題と関連する記事を一人一つ探す。 ・分からない言葉がある場合、インターネットなどを活用して調べる。 ・タイトル、記事の概要、単元とのつながりについてまとめる。 ・発表を聞きながら、他の人は単元の何と関連する記事を選んだのかワークシートに記入するとともに、記事に関連する福祉の仕事について付箋に記入する。 ・全ての新聞記事を模造紙にまとめる。 ・関連する福祉の仕事を記入した付箋を模造紙に貼り、全体で共有する。	・数社の新聞を準備する。 ・記事を見付けられない場合や選んだ記事が適切か確認したい場合、グループ内で検討する。 ・発表の準備では、適切な表現などを選択し説明方法を工夫する。
まとめ 30分	・振り返り	・社会や自分の将来とのつながりを意識しながら、単元の振り返りのワークシートを記入する。	

対話的な学び

深い学び

活用

【家庭における学習活動（事後）】

- ①本日の学びを深める内容を指示する。
興味ある福祉の仕事や職業人を1つ選び、仕事内容と職業人として必要な資質・能力について調べ、ワークシートに記入する。
- ②次時に向けて指示する。
次時のワークシートを完成させる。

主体的な学び

探究